

上海の屋根

中国・上海

Shanghai

丹下憲孝 = 文・写真解説
NORITAKA TANGE



石庫門の屋根の風景

コーナーの部屋から見える屋根の風景。中国と西洋、双方の建築様式が見て取れるのが石庫門の特徴で、起源は19世紀末にまでさかのぼるとのこと

幾つもの屋根が連なる風景は、心を和ませる効果があるようだ。フィレンツェの朱色の屋根しかり、京都の町家の屋根もしかりであると、幾つかの記憶を辿ってみたが、経験則としては実証されているように思う。

上海は新天地の一角にある「上海88新天地」から眺める屋根の風景は、隣接する太平橋公園 (Tai ping Qiao Park) の緑や、中心街である淮海路 (Huai Hai Road) の踊るような夜景といった、上海でも指折りの風景と天秤にかけても、なかなか捨て難い味のある風景である。

石庫門 (Shi Ku Men) という建築様式の住宅がこの屋根の主で、それらを改修し、商業施設として再生させた新天地は、フランス租界時代のノスタルジックな上海を現代に伝えており、いまさら説明の必要がない程、名の通った観光スポットとして親しまれている。その一方、青煉瓦や黒煉瓦造りの建築的遺構には、ここで暮らした人々のほのぼのとした生活の記憶を想起させる何かが宿っており、この遺構を包み込む屋根の風景からは、たとえ修復されたものであるとしても、当時の暮らしを象徴する温かな雰囲気が出ているように感じられたのである。



ホテル外観

客室数は53室ほどの小さなホテルである。ホテルの東側、太平橋公園からの眺め

そうした面持ちは、「上海88新天地」の空間にも引き継がれているように思われた。

新天地のメインストリートから少し離れたところにあるひっそりとしたエントランスは、軒が低く抑えられ、石庫門の街並みとも一体感が保たれている。数年前、まだ建築途中のこのホテルをオーナーと訪れた際には、コンドミニウムとしての計画が進められていた。長期滞在型を想定していた当時のデザインの骨格が、他のホテルとは一線を画す、こぢんまりとして落ち着きに満ちた内部空間をこのホテルに与えたのだろう。中国格子の透かし建具は、透過性のあるレイヤーのようにして、パブリックスペースからゲストルームまでのプロセスを柔らかく分かたせて、それぞれを連続的につないでいる。エレベーターホールと坪庭のような吹抜けを囲む共用廊下を間仕切る格子の扉を一例に、一般的なホテルよりも繊細に私的な領域とパブリックな領域とを変化させる空間演出のおかげで、ホテル全体がとて身近な存在になっているのである。

ホワイトを基調とし、ライトグレーのカーペット、ページュのモダンなソファというシンプルなインテリアに、中国伝統の調度品が持つ装飾性を適度に重ね合わせたモダンチャイニーズのゲストルームには、ベッドが床から一段高い位置に設えられている。格子のフレームとレースに包まれたベッドスペースは、ゲストルームに至るまでの格子のレイヤーに大切に守られているようでもある。意識の上で、空間のイメージはエントランスから途切れることなく連続し、プライバシーの度合いが高まっていくため、私的な領域が実際よりも広く感じられ、ゆとりとした心持ちでいられるのである。

物理的にはこぢんまりとしているが故に、気持の上では伸び伸びとしていられる。普段の自分に近い感覚でくつろぐことのできるホテルなのである。寒の戻りが過ぎれば、寒冷前線も表情を和らげるであろう。少し足を伸ばして、上海の屋根を眺めながら、和みのひとときを過ごしてみたいだろうか。*

たんげ・のりたか—建築家/1958年生まれ。ハーバード大学視覚環境学、工業エンジニアリングを卒業後、ハーバード大学大学院建築学専門課程を修了。2003年より丹下都市建築設計代表取締役社長。
主な作品：サルバトーレ・フェラガモ・フラッグシップショップ (2003)、東京プリンスホテルパークタワー (2005)、統一グループ台北本社ビル (2005)、上海銀行本社ビル (2005)、キャセイ・シネプレックス (2006) など。



バルコニーからの淮海路の夜景

派手なライティングが特徴的な上海の夜景。手前に見える石庫門とのコントラストは、新旧が入り交じり、混沌とした上海を象徴するかのようでもある



ベッドルーム (スタンダードルーム)

柔らかな雰囲気にも包まれたベッドルーム。ちなみに雰囲気だけでなく、ベッドマットが厚手で堅さもちょうど良く、寝心地は抜群であった



リビングルーム (スイート)

中国伝統の装飾美とモダンなインテリアがバランス良くミックスされたゲストルームは、長期間の滞在でも快適に過ごせそうな雰囲気である



エントランスホール

中国格子が重ね合わされたエントランスホール。格子を通して、向かいの太平橋公園の緑の気配が感じられる